たいよう

発行所
太洋基礎工業㈱
たいよう新聞委員会

声援

四八期へのスタート

三寒四温を繰り返し、日々春が近づいて来ていますが、まだまだ朝夕の寒さ厳しい日々を残しています。風邪やインフルエンザに罹らないよう予防対策・体調管理に十分な配慮して下さい。新年に替わり早一ヶ月が過ぎました。二月は四八期の始まりの月です。四七期を総括し心機一転、新たな四八期を共に頑張りましょう。

前期は創業五五年記念すべき年、記憶に残る年にしたいという思いで、記念行事の企画開催、完工・収益目標の達成、全部署・全現場黒字化、新工法の施工実績作り等に会社を挙げて頑張りました。結果、収益目標達成、完工目標に於いても住宅地盤補強工の増収により達成できました。記念行事では、神守研究開発センターの開所式と創業五五年式典を職員と職域関係者等で楽しく祝うことができました。又、ＯＨＯドレーン工法、浅深ランド４工法、ミニウォール工法、Ｎ-ＳＰＣ工法、鉄粉気泡混合工法、ＣＣＣ工法等の重点営業工法の受注に加え海外事業の受注もでき、各々に施工実績も作れました。創業五五年に相応しい年になりました。これもひとえに職員、職域関係者の皆様方の弛まぬ頑張りと特に住宅地盤補強工に従事した皆様方の努力の成果と感謝しています。四八期も同様の努力と頑張りを期待しています。

さて、四八期は安倍晋三自公政権のデフレ脱却・経済再生を目指したアベノミクス三本の矢の最終策に入ります。二〇二〇年の東京オリンピック開催、リニア中央新幹線の新設、消費増税に伴う経済悪化防止対策として大型の補正予算も組込まれようとしています。建設業界にとっては、今後一〇年程度追い風が続くと推測されています。当社もこの追い風に乗って一〇〇年安心経営の基盤整備をしたいと考えています。

各支店に於きましては年末に提出して頂いた方針と対策に基づき支店運営をお願いします。ここ数年堅調に推移している東京支店では大型工事の施工も終盤を迎えていますので、引き続き安定した出来高と収益を獲得するには大型工事の受注・施工が不可欠と思います。全支店で最も受注環境が良いので支店間で情報収集し、会社全体の視野を持って営業又は受注する事を期待しています。今期は液状化対策工法（バルーングラウト工法）の出件も多くあると聞いています。受注できるよう努力願います。又、新工法が採用される機会が関東方面では多くありますので、検討物件情報を収集して工法提案型の営業活動及び受注を目指して下さい。

静岡支店では、公共工事の発注物件も少ないせいもあって工事部系の受注・完工が伸びない状況にあります。前期開設しました浜松（出）方面への営業エリアを広げ、情報収集を密にして取りこぼしの無い様お願いします。

長野支店では、下水道等のインフラ整備も終盤を迎え年々受注金額が減少してきています。営業エリアの拡大が急務と考えられます。先ず新潟方面に営業工種を増やす事で仕事量を確保して下さい。

名古屋支店では、静岡支店と同様に受注環境が厳しい状況と考えられます。神守研究開発センターの保有機や施工班を利用した工事受注に期待しています。又、実績を重ねてきました元請工事、土壌浄化工の受注に努力願います。

大阪支店では、順調に推移してきています福岡営業所、九州営業所、熊本出張所を統合し、九州支店への組織作りと支店に相応しい業種確保を期待しています。又、工事部関係では前期に続き全現場黒字化を目指し、確かな原価管理をして下さい。尚、住宅関係では前期は受注件数が増加し、収益面でも良い結果がでました。引き続き受注件数の維持に努めるようお願いします。

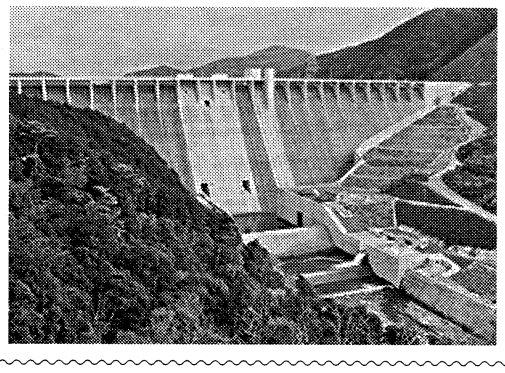
神守研究開発センターでは、全支店へ工事支援、施工機械の点検整備及び出荷、新工法の研究開発を主体に動いています。四八期も更なる進化を目指し、特殊工事の支援体制の強化、製作技術の向上、新工法の早期実用化、施工機械の点検、修理及び改造技術の向上に努力して下さい。

全社的に昨年に比べ繰越工事が少ないので先ず受注に努力願います。各支店が各々の役割を受注を頂き、主に柱状改良や鋼管杭等の地盤改良工事を、施工させて頂いております。

昨年一一月に事務員として入社いたしました私と一月に新入社員を迎え、四名で活動しています。四月からの消費税ＵＰと更なる住宅ローン減税の拡充も決まり、忙しくさせて頂いており、ここ最近は皆が揃うことはあまりありませんが、基本である報告・連絡・相談を活用しています。受け持つエリアが広く、移動距離、移動時間も長いですので、一人一人が、いつも安全運転を心掛け、目指すはゴールド免許です。

最後になりますが、今後とも皆様方の一層のご指導、ご鞭撻の程宜しくお願い致します。そして全国の皆様の現場が、一歩でも安全性一〇〇％に近づくように無事故、無災害に向けて本日もご安全に！

大阪支店　九州営業所
井上　亜希子



事業所だより

皆様、日々の業務お疲れ様です。節分も過ぎ、暦の上では春・・とは言え、まだまだ寒い日が続きます。去年に続き、今年もインフルエンザやノロウイルス等、罹りたくない怖い病が流行っています。心も体も健康でなければ何をするにもポジティブな姿勢では臨めませんよね。毎日しっかり食べ、しっかり眠り、果たせば、昨年同様の良い年に出来ると信じています。皆様の頑張り期待しています。

最後に今期の最重点目標は新年号に記載しましたが、再確認の意味でここに記載します。

①施工管理・品質管理・工程管理および原価管理を確実に行い、全部署・全現場黒字化で完工・収益目標を達成。
②無事故無災害、重大災害は勿論のこと、交通事故や物損事故に至る災害の撲滅を目指す。
③重点工法（ミニウォール・浅深ランド４・鉄粉気泡混合・ＯＨＯドレーン等）の受注拡大と現場力の強化。
④職員の質の向上、協力会社の施工技術向上への教育講座の開催。

以上の四点を重点目標に挙げました。資材・建設機械・人手不足による厳しい施工環境になると思いますが、先ずは受注して賢く料理する事で、目指す目標に向かって精一杯努力し頑張っていきますので、ご支援・ご協力の程宜しくお願いすると共に皆様の健康とご健勝を願っています。

代表取締役社長
伊藤　孝芳

一日一度は必ず笑って自己管理して頑張っていきましょう。

さて、九州営業所は佐賀大和ＩＣ付近に位置し、少し山手の方へ車を走らせれば、天山スキー場や古湯温泉、平成二四年三月に竣工した嘉瀬川ダム等があります。このダムの大きな役割は洪水調節ですが、水道水・工業用水・灌漑用水の供給、さらには発電も行う新鋭ダムなのです。秋には紅葉が美しく、県外からも訪れる人がいるほどです。

佐賀は低平な地域で起伏がほとんどなく、元々、県の大部分は平野部で田んぼが多く地盤が非常に緩いので、目立つ高い建物は市内中心部にしかありません。この様な特徴も世界クラスで障害物が気にならない地域として、安全に気球に乗れる地として毎年一一月にインターナショナルバルーンフェスタが開催されます。県の西部にある我が営業所の平島所長の出身地、武雄市には去年四月に全面改装され、館内に書店とカフェが併設されている図書館が注目を浴びています。そして、日本銀行や東京駅の設計を行った、辰野金吾設計の楼門がある武雄温泉があり、国の重要文化財に指定されています。隣町には嬉野温泉も有名で、冬場の観光客は多いです。車がないと不便な地域ですが、大きな自然災害もなく、とても住みやすい所です。

さて現在、九州営業所は経費節減にＩＴを積極的に活用しています。その結果、大量の書類が嵩張ることもなく、データ探しに時間を費やすことも少なくなりました。今年に入り、昼休み中の節電や所内書類の裏紙出力を少しずつですが行っています。現場では九州北部エリアで・初期のウエル、注入、推進工事について四ヶ月に渡って記してきました。

共生共迎

進化の過程で製造され、現在余り使われていない機械の紹介等でアーカイブス一区切にします。

・大阪のウエルの材料メーカー様、工事施工にも事業を拡大され、ご子息がポンプのパッキン取替中に感電死。当社は即全てセパレータタンク内に揚水量に合わせた水中ポンプを設置できるタイプに変更。安全で使い勝手は抜群に良い。特許にしている訳でもありませんが、余り同業他社に採用されていない不思議な気もする当社の省エネアイデア商品のひとつです。

・刃口推進、土砂崩壊安全効率対策としてφ一五〇〇粍以上の管内掘削にショベルとベルコンを組み合わせた掘削機。一月号で紹介しました六孔直押推進機をセンターで在庫。推進延長の短い現場にはコストを考えると刃口推進の採用もあって良いのではと何かの折りに活用して戴ければと記してみました。

・ウエルポイントを活用したリチャージ、超簡便な軟弱層での圧入推進装置、その他注入工事用ロッド専用引抜き機四台在庫。ロッドが多く必要となりますが、削孔引抜きを分けて施工でき、大量注入現場で活用の道があるのでないでしょうか。眠らせておくには惜しい商品です。

二月から土質、水替、注入、推進、住宅基礎、壁の順で隔月に技術講習会が計画されています。財務諸表に載らない含み資産、技術こそ太洋の真の財産、創業五五年培ってきた一般の専門書には記載されていない多くのことを学ぶことができるでしょう。職域の技術力向上、業績向上に一層励みたいものです。

顧問　豊住　満

最前線レポート

浅深４軸地盤改良工事

発注者
福井土木事務所

工事場所
福井県福井市布施田町
丸岡川西線

工事名
道路改良工事（橋梁整備）
その３工事

工事内容
中層混合改良工
改良深　四～五ｍ
改良体積　四二四〇㎥

工事現場は当社福井営業所の東側一級河川九頭竜川の東西に架かる布施田橋の掛け替え工事に伴う取付道路の新設工事です。橋梁の取付堤防より約三五〇ｍに渡る築堤盛土を行うのですが、地形的には九頭竜川の氾濫原に当たり、後背湿地要因の高い沖積性粘性土が主体でＮ値二～三の軟弱土ですが、粘性のきつい土質地盤として形成されています。

当初設計では築堤に伴う上載荷重および交通荷重による圧密沈下に対して、プレロード盛土により安定させる計算で良かったのでしたが、現状地盤の軟弱層が任意すべりによる滑動崩壊に耐えられない計算結果となり、その側方土圧による崩壊を抑えるべく堅固な改良地盤の壁を成型する事で安定させる、その目的の構築物が今回の地盤改良です。

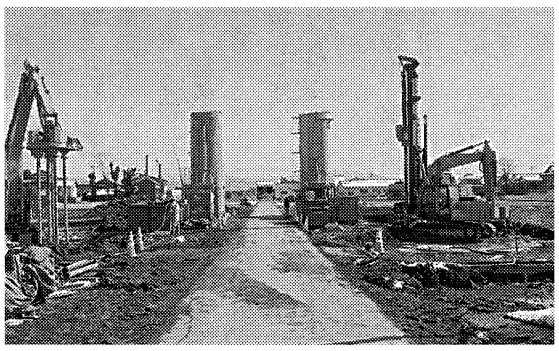
当初設計の地盤改良はパワーブレンダー工法でしたが、同等以上の工法として浅深４軸工法を承認して頂き、施工することが可能となりました。

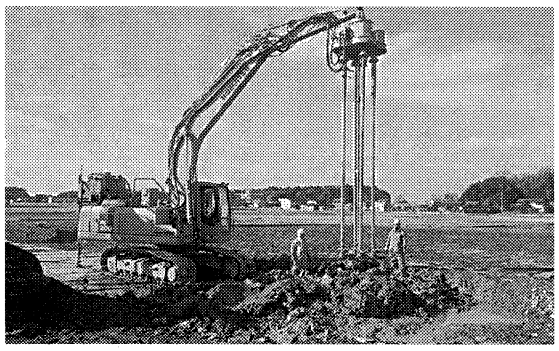
工法を変更するに当たり、道路橋示方書軟弱地盤対策工の改訂から、円柱状の混合攪拌工法においては、接円タイプにおけるすべり抑止壁は認められずブロックタイプ（ラップ施工）にて計算しなければなりません。また、ラップ施工においても経済性を考慮すると一〇〇％の改良率ではセメント使用量が大幅に食込み過ぎてしまいます。浅深４軸工法は４軸の攪拌翼が一〇㎝重なっており構造物的設計手法が認められます。しかし改良率が一〇〇％にならない分、平面上における改良面積を当初設計より多少増やし、任意すべり崩壊応力を断面上における抑止壁の幅を増やす事で滑動転倒、支持力からなる安定計算で所定安全率を上回る事を証明して当該工法の採用を理解して頂くに至りました。

さて実施工におきましては、築堤盛土中心を軸に北側部分を当社独自工法のＴＳＣ工法（φ一二〇〇㎜）で、南側部分をφ七〇〇㎜浅深４軸工法にて対比施工しております。ＴＳＣ工法は単軸である事から施工指針に乗っ取り、二往復攪拌にて改良体の成型を施しています。４軸工法においては、一往復攪拌にて改良体を造っていますが、目視でも充分な練り混ざりが確認できます。これは４軸の同時攪拌による相乗効果による安定した練混が成っているものと思われます。

４軸の攪拌において、横軸と相反する回転を施するに対し、斜体面とは同回転にて攪拌するレムニ運動（８の字運動）のクロスと考察すれば、円形改良体にあって、図面上での未改良部分は実施工時には所定強度の改良体として造成されている事が確認されると思います。現場を積み重ねる事により、多くのデーターを収集し、高改良率を実証できればコストダウンに繋がると期待します。また、中層攪拌工法で土被りを有する改良箇所に於いて、トレンチャー型に比べコスト面も踏まえ有利点が多く、受注活動に大きな武器になると技術提案を積極的に売り込もうと思っています。

名古屋支店　福井営業所
松本　洋





新入社員紹介

皆様、はじめまして。一月六日より大阪支店九州営業所に中途で採用して頂きました。繁谷丈史（たけし）です。

以前は、工場向けの設備メーカーで電気設計の仕事をしていました。昨年退職し就職活動を行っておりましたが、なかなか仕事が見つからず心身ともに疲労しておりました。当社で採用して頂き、大変感謝しております。

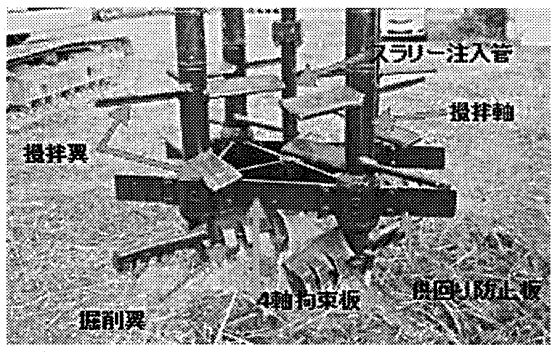
同じ技術畑とはいえ、かなり異なる業種からの転職で入社に対して不安がありましたが、九州営業所の皆様の支えとご指導のお陰もあり、今のところ安心して勉強させて頂いております。現在は所長、先輩に付いて住宅工事の現場を廻り、主に工法について学んでおります。分からないことだらけですが、疑問に対して一から説明して下さり、少しずつではありますが、確実に知識と技術を習得できていると思います。

入社するに力添え頂きました加藤支店長、福岡営業所の皆様に、この場をお借りして感謝申し上げます。ご期待に沿えるよう勉強し、早く戦力になれるよう頑張ります。迷惑をお掛けすることが多々あると思いますが、今後ともご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願いします。

大阪支店　九州営業所
繁谷　丈史

安全運転だより

追い上げられたら？



制限速度を守って走っていると、後続車がぴったりと後ろに付いて急かせてくる…、迷惑千万な話です。

こんなとき、心優しい人ほど急いでいる後続車に迷惑を掛けているのではないかと感じ、つい、速度を上げたりしがちですが、これは決して望ましいことではありません。

速度を上げるということは、それまでそれが適切だと思って保持していた速度を超えて走ることになるのですから、自分で制御できる以上の危険な領域に踏み込んでいくことに他ならないからです。それまでの速度を保っていれば避けられたはずの飛び出しなどの危険を回避できず、むざむざ事故に巻き込まれるといったことにもなりかねないでしょう。

必要以上に先行車との間隔を縮めて追走するという行為は、前の車の運転者に余分な神経を使わせるだけでなく、後ろが気になる分、前方への注意を疎かにさせ、挙句の果ては望まぬ加速を強いて危険に追い込む許しがたいマナー違反だと言うべきですが、それに腹を立ててみても始まりません。

こうした際の最善の対応策は、相手が追い付いてきても必要以上に速度が落ちてしまっていたような場合を除いて、これまでの速度を保ち続けることだと思います。こうした追い上げをするような運転者は、こちらが少し速度を上げたからといって満足してはくれませんから、どんなに煽り立てても無駄だと諦めさせるのが一番なのです。ただしその場合は、急ブレーキなどの必要を生じさせない為に、前方に適切な車間距離を確保しておくことを忘れてはなりません。そしてできるだけ道路の左側に寄るなどして、早く相手に追い越させるよう計らうことです。一旦止まって、やり過ごす手もあるでしょう。

一方、ブレーキランプを点滅させて、相手に速度を落とすよう警告したりするのは禁物です。かえって相手を苛立たせたりする危険性があるからです。制限を大きく下回るような速度ならいざ知らず、制限どおりの速度で走ることは、迷惑どころか、それこそが安全や円滑につながる望ましい運転なのだということに、もっと自信を持ちたいものです。

管理本部　総務部
部長　**野下　隆雅**

社長室だより

月間ＭＶＰ賞

受賞者
有限会社　山崎組
山崎　祐二　殿

積水ハウス（株）様に新築住宅の成約物件を紹介して頂きました。成約物件を紹介することは、顧客への営業協力として当社への貢献も非常に大きいものとなります。

よって月間ＭＶＰ賞に値するものと推薦いたします。

名古屋支店　開発部
部長　奈良坂　和行

月間ＭＶＰ賞は当社職員だけでなく協力会社の皆様も表彰の対象となっています。自薦、他薦は問いません。多くの受賞者がでることを期待しています。

代表取締役社長
伊藤　孝芳

共済会だより

☆新しい仲間

二月一日
島田　邦彦
名古屋支店　営業部

三ッ井　裕
長野支店　開発部

白濱　和人
大阪支店　福岡営業所

☆お疲れ様でした

一月三一日
小川　由希子
名古屋支店　開発部